

SSKP



...

Aikoh No.69

福祉社会への道を照らす 愛の灯台
～一隅を照らす実践、地域への貢献～

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可
二〇一九年八月七日発行(毎月十八回)一、二、三、五、六、七の日発行
SSKP通巻第7223号



特集

#メイドイン愛光

／理事長交代のご案内

<CONTENTS>

2018年度 事業報告・決算報告

こくご・さんすう・りか・ふくし

ともいきGO

ほっとでホツとできるところ

and more...

QRコードから
愛光ホームページを
ご覧いただけます。
<スマートフォン対応>



最新情報を随時配信中!

写真: 佐倉市南部児童センターのみなさん

#メイドイン愛光

愛光では、利用者さんの個性を活かして、さまざまな創作活動(クリエイティブワーク)を行っています。制作した作品は、“メイドイン愛光”として地域の皆さんに販売しています。視覚障害や知的障害等があっても、どうすればハンディを乗り越えて、作品に仕上げるかを、職員と共に三人三脚で取り組んでいます。試行錯誤しながら、愛光ブランドをめざした製品づくりは、今も続いていて、その中から新作も生み出されています。それでは、メイドイン愛光の作品を紹介します。

手芸

バレット



気分に合わせて、カラフルな髪飾りを!

ランチョンマット



食卓に彩りを☆

パン皿



陶芸班イチオシ!朝食にもピッタリ♡



手びねり碗セット

こだわりの一点もの。真心を込めて作りました!

とっても可愛い豆皿だよ♪



豆皿

用途に合わせて自由な組み合わせを!

陶芸

創作

紙すき封筒各種



想いを手紙で送ってみませんか?

ミニポチ袋



500円玉サイズのかわいい袋です

園芸

ペチュニア



夏から秋にかけて、たくさんの花が咲き続けます。

オリジナル名刺



こだわりの名刺に点字を入れて一味違う仕上がり! (印刷は同法人の「ワークショップかぶらぎ」が承ります。 ※チラシや封筒などの各種印刷にも対応!)

農耕

堆肥



花も作物もくんくん育つ!

季節に合わせて色々なお花を育てています!

フリムラ(冬~春)



#メイドイン愛光情報!

今回紹介した商品はイベントや販売会などで販売しています。興味のある方は、10月に開催される「愛光秋まつり」でたくさんの展示がありますので、是非会場に足を運んでみて下さい。貴方のお気に入りの一品が見つかるかも。

秋まつりの詳細は裏表紙を

Check!

2018年度 事業報告



法人本部

●法人の当年度スローガンは『共に支える 共に生きる ～地域包括ケアシステムの深化へ～』とした。

「地域共生社会の実現」を重点項目とし、中期経営計画と法人スローガンを同一のものとした。南部地域福祉センターを拠点として、「支える側・支えられる側」という関係性ではなく、誰もが「共に支え合い、共に生きる」地域社会を目指し、法人内の機能が連携し各事業所が参加できるシステムの基礎作りの1年となった。

●「地域共生プロジェクト」改め「ともいきプロジェクト」始動

地域に浸透しやすい名称を考え「地域共生」に関わる一連の取組を「ともいきプロジェクト」とした。ともいきプロジェクトの対象事業は、①福祉なんでも相談センターともいき(南部地域包括支援センター・アシスト)②地域食堂ともいき(福祉充実額充当事業)③サロンともいき(通所型サービス事業:総合事業)④訪問型サービスAともいき(総合事業)⑤ボランティアセンターともいき、を考えている。

障害者支援事業部

●ルミエール(障害者支援施設)

「笑顔で、やさしく、ていねいな支援を実践し、ともに支え合う」をスローガンとし、利用者への対応を見つめ直し、丁寧な支援を構築することを目標とした。利用者の平均年齢も50歳を超え、健康管理や日常生活支援がこれまで以上に必要な方が多くなっている。心身共に充実した日を過ごせるよう日常の支援を提供していきたい。

●めいわ(障害者支援施設)

【入所部】

スローガンは「地域から信頼される利用者サービスを!」とした。スローガンを意識して地域との繋がりが少ない利用者のため、地域に出かけて利用者を知ってもらうことから始めた。当年度は「合鴨農法による米作り」に5月から参加した。また、認知症啓発のためのマラソンイベント「RUN伴」に障害のある利用者がボランティアをするという形で参加した。

【通所部(根郷通所センター)】

スローガンは「福祉の拠点となるパイプをつなげよう!」とした。地域住民との挨拶や学生の実習生を積極的に受け入れる中で、地域で暮らしている障害者や家族との関係等を説明するなど、その「暮らし」を伝えたことがスローガンにつながった。さらに、地域での生活、社会で生きていくための視点を持って支援することを意識して取り組んだ。

●リホープ(障害者支援施設)

スローガンは「地域視点で、利用者生活を考えよう!」とした。12月に1名、次年度の4月に2名の短期入所利用者がグループホームに移行する予定である。本人・家族の要望を踏まえ検討を重ね、相談支援事業所に積極的に働きかけることで地域移行に成功することができた。

●佐倉市よもぎの園(就労継続B型)

スローガンは「ステップアップを目指せる仕事作り」とした。意思決定支援の重要性が改めて問われるなか、人それぞれの形があるステップアップという言葉をどう捉えて就労支援に繋げていくのかを念頭に運営を行う一年であった。

●ワークショップかぶらぎ(就労継続B型・自立訓練)

スローガンは「地域生活を支える礎になろう」とした。佐倉市総合支援部会への参加を軸に市民講座(啓発活動)への講師派遣を行い好評の声をいただいた。適正な定員数への見直しと経営安定を図るべく定員を30名から20名への変更を行った。

●ジョーの家(障害者グループホーム)

スローガンは「地域に溶け込んだアパートであることを大切にしよう」とした。グループホームという社会資源がどういう位置づけで地域にあるのか。また、グループホームのあり方や地域で暮らすことの支援とはどうあるべきか改めて考え直す時期にきていると感じる。

●山王の家(障害者グループホーム)

スローガンに「育もう、生きる力」を掲げ、開所から1年半が経過した。不安を抱いてスタートした新生活も、今では利用者自身の好きな過ごし方ができるプライバシー空間が確保され、個々に工夫を凝らした日常生活を過ごしている。今後は生活の主体者、人としての豊かさをめざして、更なる自主性の尊重・意思決定の支援を行っていきたい。

高齢者福祉事業部

●高齢者ケアセンターはちす苑

当年度のスローガンは「地域」つながる。ひろがる。ひびきあうとした。日常生活支援総合事業の本格スタートとなった。佐倉市南部地域の高齢者福祉拠点となるための基礎固めをテーマに、共生型サービス・通所型サービスB・訪問型サービスA(緩和)の事業を開始し、居宅サービス課を中心に取り組んだ。地域共生社会構築に向けて事業展開など強化していきたい。

地域福祉事業部

●佐倉市南部児童センター・学童保育所

スローガンは「地域づくり 子育ての目配り気くばりから」とした。児童センターは家庭、学校に加えて「第三の場所」として、学童保育は「家庭に代わる生活の場」としての機能を可能な限り発揮できるようにアイディアを出し合いながら児童の健全育成に努めてきた。

●総合相談センター(佐倉市障害者生活支援センターアシスト・佐倉市南部地域包括センター)

スローガンは「地域の一員として考え、共に取り組む」とした。法人の共生プロジェクトともリンクするが、当年度は「ねっこの会」が主催している『ねっこ食堂』、法人と山王住民で開催している『地域食堂ともいき』の支援を行った。今後も地域資源として成長するように協力していきたい。

●佐倉市南部地域福祉センター

「心を寄せてともに目指そう豊かな地域」をスローガンに、地域住民との関係を大切にセンターの事業運営に取り組んだ。「地域共生社会の実現」「地域包括ケアシステムの構築」のためには、南部地域の福祉の拠点となり、地域へ向けての事業展開をしていくことが求められている。





佐倉市立南部児童センターは、乳幼児親子から18歳まで利用できる児童厚生施設です。児童センターの事業のひとつに、小学生対象のボランティアチーム「スマイルクラブ」の活動があります。地域の高齢者施設、オレンジカフェ(認知症カフェ)への訪問や、認知症サポーター養成講座の受講など、他の機関と連携してボランティア活動に取り組んでいます。



ある日の「スマイルクラブ」で

高齢者施設を訪問したときのこと。一緒にかかるたあそびをしました。

施設のスタッフの方が、「このおばあちゃん、100歳なんですよ」と言うと、「まー！？お肌つやつや！」と応えるまあさん(6年生)。周囲にどっと笑いが起きます。

絵札を取りやすいように、「このへんにありますよ！」と指差しをして教えるあきさん(3年生)。取れた後は、「すごいですねえ！今5枚でトップですよ。」などとみんなで盛り上げます。



帰り際、全員に握手をして回るゆう君(5年生)。最初は固い面持ちだったおじいちゃんも、思わずニコリ。中には、寂しいのか、泣き出す方もいらっしゃるほど。子どもたちは、事前の打ち合わせをすることなく、ごくごく自然に高齢者の方たちに寄り添います。インストラクターは、子どもたちの自主性を信じ、困った時に少しだけアドバイスします。

学校や家庭ではできない「自分で考えて行動する」という経験は、子どもたちの大きな自信と財産となるに違いないと思います！

放課後や土日は小学生、中学生が児童センターにあそびに来ます。友だちと一緒に卓球や、バスケットボールであそぶ子、「ひまだから」とインストラクターと話をして過ごす子など来館する理由はさまざま。

「ありのままのあなたでいいんだよ。」

まずは、子どもたちをまるごと受け入れ、子どもたちにとって、居心地のよい「居場所づくり」の役割も担っていき、そんな南部児童センターでありたいと思います。

【佐倉市南部児童センター】
〒285-0806 佐倉市大篠塚 1587(南部保健福祉センター内) TEL043-483-2800



愛光後援会 愛の灯台基金だより

作:めいわ利用者

2019(令和元)年度 会員募集

(会期:2019年7月1日~2020年6月30日)

愛光後援会 愛の灯台基金では、新年度 2019年度の会員を募集しております。

皆様のご賛同により、愛光の展開する福祉事業を支援し、地域社会の福祉文化向上の推進と地域貢献活動を目的に活動しております。隔年で開催されるチャリティーコンサートを2020年6月に開催いたします。未会員の方も是非この機会に後援会の活動へご参加ください。

年会費

個人会員 1,000円(1口)

団体会員 10,000円(1口)

※ 口数に上限はありません

折込の振込用紙をご利用ください。
新規会員、及びご登録会員の皆様のご入会を心よりお待ちしております。

《お問い合わせ先》
愛の灯台基金事務局 043-484-6398

第9回目のコンサート
初挑戦!
子どもから大人まで
楽しめる
ミュージカル



あいとひかりのコンサート2020

2020年 6月 予定

劇団飛行船

「ロビンフッドの冒険」

マスクプレイミュージカル

会場:佐倉市民音楽ホール

感謝のコーナー (2019.3~2019.6)

法人ならびに各施設に対して、ご芳志をいただいた皆様です。厚く御礼申し上げます。勝手ながら敬称を省略させていただきます。(順不同)
【個人】小柳 俊朗、有山 賢一、濱田 善嗣、吉成 庸子、大谷 慎、矢野 光子、宮嶋 としえ、山田 絵美、濱口 章子

日誌抄録

(2019.3~2019.6)

ル:ルミエール
根:根郷通所センター
よ:よもぎの園
包:南部地域包括支援センター
山:山王の家
め:めいわ
は:はちす苑
か:ワークショップかぶらぎ
児:児童センター・学童
後:後援会「愛の灯台基金」
リ:リホープ
ア:アシスト
ジ:ジョーの家
地:南部地域福祉センター

3月

2日 第8回職員実践発表会
6日 身体拘束廃止研修(は)
8日 総合防災訓練(佐倉事業所)
15日 法人研修:次年度メンター研修
16日 理事会
18日 法人創立記念日
19日 法人研修:介護マスター養成講座
20日 地域食堂「ともいき」オープン
21日 法人研修:リスクマネージャー養成講座
24日 評議員会

5月

1日 身体拘束廃止研修(は)
10日 事業監事監査(23.31)
15日 地域食堂「ともいき」(第3回)
20日 法人研修:リスクマネジメント研修
23日 監事監査(会計)
29日 内部研修「回診ケアについて」(は)

6月

6日 理事会
9日 光和会のご自慢大会
14日 法澤理事長 記念講演
19日 地域食堂「ともいき」(第4回)
23日 理事会・評議員会

4月

1日 辞令交付式
1日 新任職員研修(~3日)
13日 成田太鼓祭り出演(め)
17日 地域食堂ともいき(第2回)
17日 法人研修:介護マスター養成講座
23日 法人研修:メンター研修
27日 Aikohフォーラム ともいき亭:桂文雀独演会(後)



理事長交代のご案内

このたび6月の理事会、評議員会において、理事長および役員、評議員の変更がありました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域のなくてはならない存在に

—新理事長 就任のごあいさつ— 理事長 西原弘明

このたび前法澤奉典理事長の後を継ぎ、若輩ながら理事長に就任いたしました。社会福祉が大きな変革期を迎えているこの時代に理事長の職に就くにあたり、その責務の重さを痛感しております。

われわれ愛光は、制度発足(1951年)から4年遅れの1955年のスタートで、ほぼ社会福祉法人の歴史とともに歩んできた古い法人です。1994年の事業所移転を機に、大きく方向転換し、いまや事業は障害、高齢、児童という対象分野をカバーし、経営ビジョンである「総合的福祉サービス」にふさわしい事業を展開する法人となりました。そして、2017年の社会福祉法の改正は、これまで法人の掲げていた地域志向の事業展開の延長線上にあり、目指していた地域福祉の中核的な担い手としての存在意義を明確

にするものでした。

前法澤理事長は、法人の基本指針として、「地域福祉の視点からの事業戦略」「障害者、高齢者事業の一層の地域化」「財政基盤の健全化・強化のための中長期財政計画」「地域の福祉文化の推進役としての事業後援組織の育成」を打ち出し実践してきました。

今後、先人の残された財産を大切に守り、たくさんの方の縁を大切に、より一層地域にとってなくてはならない存在となることができるよう、微力ながら職務に邁進いたします。そして社会福祉法人だからこそできることを念頭に置き、その使命を果たすべく努力する所存です。前任者同様、今後も更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(2019年6月24日)

◇理事・監事

(任期：2019年6月～2021年6月)

役職名	氏名	選任領域
理事長	西原 弘明	法人職員
副理事長	河野 尋幸	地域福祉関係者
副理事長	池田 勝也	法人職員
業務執行理事	池田 浩一	"
"	片野 明美	"
"	河田ひろみ	"
"	吉田 信之	"
理事	酒井綱一郎	地域福祉関係者
"	松山 毅	福祉の学識経験者
"	吉野 智	法律家
監事	井上 郷	財務有識者
"	滑川 里美	福祉の学識経験者

◇評議員

(任期：2019年6月～2021年6月) *敬称略

役職名	氏名	選任領域	役職名	氏名	選任領域
評議員	足立 元秀	地域の福祉関係者	評議員	黒田 聡	福祉の学識経験者
"	伊佐 勉	"	"	近藤 武雄	地域の福祉関係者
"	石毛 滋之	利用者家族代表	"	中澤 昌子	"
"	大賀 四朗	地域の福祉関係者	"	布施 千草	福祉の学識経験者
"	小川 雅夫	福祉の学識経験者	"	御園 政光	地域の福祉関係者
"	長田 研自	地域の後援者	"	山崎 昭造	"
"	葛西 広子	福祉の学識経験者			



「令和の愛光」への期待

—理事長退任のごあいさつ— 会長 法澤奉典(前理事長)

「やっとこの日が来た」

「ついにこの日が来た」

愛光理事長職の退任にあたり、この相反する二つの思いが胸の中に湧いてきます。

どこかで感じ続けてきた重圧は、やはりその責任の重さからでしょう。すべてが自分にかかっていたわけではないのですが、やはりほっとした解放感を味わっています。また一方で、やり残したことへの悔いも味わっています。

私が理事長職にあったのは、ちょうど平成時代の後半の16年。福祉制度が大きく変わった“改革の時代”でした。またこの間には、東日本大震災に遭遇して、危機管理やBCP(事業継続計画)の重要性

を再認識しました。

そして本年5月1日、平成からの改元があり、「令和」がスタートしたばかりです。まさに「令和の愛光」が、いままさに歩み始めました。地域社会における社会福祉法人の役割がさらに高まるこれからです。若いリーダーの下で、ともいきプロジェクトが大きく花開くことを楽しみにしています。

千葉市内の稲毛にあった愛光学園にお世話になってから通算すると35年。利用者や地域の皆さんとお付き合いしてきた日々を振り返りつつ、心からの感謝を申し上げ、お別れのご挨拶とさせていただきます。(2019年6月23日)



西原理事長



2019年度新任職員を囲んで



法澤会長

法澤奉典前理事長の経歴および業績

- 1984年4月 視力障害者愛の友協会(現愛光)盲児施設愛光学園園長就任
- 1989年10月 救護施設啓明園園長就任。90年頃施設移転計画が本格化し移転のための「基本構想委員会」発足
- 1994年4月 法人事業所の千葉市から佐倉市への全面移転完了
身体障害者療護施設ルミエール施設長就任
- 1995年11月 法人創立40周年記念式典挙行 初代加藤理事長胸像建立
- 1997年4月 重度身体障害者更生援護施設リホープ施設長就任。特別養護老人ホーム開設準備室長兼任
- 1998年12月 平成天皇皇后両陛下下行幸啓(奉迎総括)
- 1999年10月 高齢者ケアセンターはちす苑落成 苑長就任
- 2002年5月 法人常務理事。法人経営プロジェクト委員長
韓国盲重複障害者施設「ラファエルの家」と姉妹施設提携
- 2003年5月 法人理事長就任。経営理念構築、法人経営改革実施(新人事制度施行/給与体系改革/本部機能と事業部体制構築)
後援会愛の灯台基金発足
- 2004年7月 全国盲重複障害者福祉施設研究協議会(盲重研)会長就任(~2010年6月)
- 2005年4月 法人創立50周年記念式典挙行
6月 法人中長期経営計画策定(~現在第3期経営計画継続中)
- 2012年5月 私家版「福祉は人のためならず」刊行
- 2015年3月 法人創立60周年記念式典挙行
- 2019年6月 理事長を退任、会長に就任(理事長在任16年、愛光在職35年) 私家版「福祉は人のためならずII」刊行



愛光

とひろげよう、
ともいきの輪!!

秋

2018年
コロムビア・レコードより
メジャーデビュー!

吉成 ゆいさん
ミニライブ
清丸太鼓演奏
根郷中学校吹奏楽部
他
司会: 吉本芸人「蓮華」



視覚障害体験
盲導犬と
ふれあい
他

秋まつり恒例 **大抽選会!**
他、移動販売車・模擬店、
展示等多数あります!

■とき/
令和元年
10月5日(土)
11:00 ~ 15:30
■会場/
社会福祉法人愛光



物井⇄会場間送迎あります
(10:00 ~ 16:00)
※会場内駐車場には限りがあります
ので、出来るだけ公共交通機関
をご利用ください
秋まつりにご協力いただける、
ボランティアさんを募集しています。
下記担当までご連絡ください。

問い合わせ先: めいわ 043-484-6394 担当: 季

このチラシは「ワークショップかぶらぎ」で作成したものです。チラシ、封筒、冊子などの作成承ります。お気軽にご連絡下さい。

編集後記

クリエイティブワーク(利用者の日中の創作活動)を始めて今年で9年目になります。年を重ねるごとに、「私たちらしい、私たちにしか出来ないもの」を作り上げてきました。これからも『#メイドイン愛光』を大切に活動していきたいと思います。

編集委員

稲垣直子(委員長) / 林拓也(総務部) / 角田絵友(ルミエール) / 齊藤美佳(めいわ)
佐藤友里恵(リホース) / 清水翔斗(はちす苑) / 藤山明子(南部包括)
椎名豊(ワークショップかぶらぎ)

2019年(令和元年)8月20日発行
社会福祉法人 愛光
発行人 西原 弘明
編集人 広報委員会
〒285-0807千葉県佐倉市山王 2-37-9
TEL.043-484-6391
FAX.043-484-6396
E-MAIL mail@rc-aikoh.or.jp
U R L http://www.rc-aikoh.or.jp
印刷: ワークショップかぶらぎ